

2018年11月20日

NPO 法人国際CIO 学会
会員各位

NPO 法人国際CIO 学会理事長
岩崎尚子（早稲田大学教授）

学会ニュース 2018年度 第6号

拝啓 時下益々御盛栄の段大慶に存じます。平素より皆様方の御支援御協力を賜り、衷心より御礼申し上げます。

■■■トピックス■■■

1. 第3回月例研究会終了（11月8日（木）総務省国際戦略局 藤野総務課長）
2. 学会ジャーナル論文寄稿及び研究発表会発表者募集開始ー1月10日締切
3. 日ASEAN スマートシティ・ワークショップ開催
4. 高齢者のデジタルデバイド解消のためのCSRプロジェクト開催（11月28日）
5. 日中会議「スマートシルバー・イノベーション（ICTビジネスと日中高齢社会）」終了

1. 第3回月例研究会（総務省国際戦略局藤野総務課長御登壇）

第3回月例研究会は、11月8日に、総務省国際戦略局 藤野総務課長をお招きして開催しました。総務省の鈴木康雄、小笠原両事務次官経験者、山田真貴子局長などとともに学会会員の国際戦略局の中核で活躍する藤野総務課長の御登壇であり、総務省の国際戦略、展開について、詳細な内容でご発表頂きました。今後の欧米、アジアの政治、経済状況を踏まえ、日本のIT産業の将来動向についての内容に、約40名の参加者から多数の御質問もあり、活発な質疑応答になりました。次回は、年明けの開催となります。決まり次第ご連絡申し上げます。

2. 学会ジャーナル論文寄稿および研究発表会発表者募集開始 1月10日 締切

2019年3月に国際CIO学会春季研究大会を開催予定です。年次研究大会の発表者並びにこれに合わせて発行する学会ジャーナルの論文（一般、査読）を募集致します。テーマは「CIOに関する研究領域」です。詳細はWEBサイトをご覧ください。スケジュールは次の通りです。尚、理事会が12月14日に開催されますので、春季研究大会の日程および場所については次号学会ニュースでご報告いたします。

今年はずでに2本の玉稿が届いております。引き続き皆様のご応募をお待ちいたしております。

■スケジュール■

2019年

1月10日

- 学会ジャーナル一般論文募集 締切
- 学会ジャーナル査読論文募集 締切
- 春季研究大会発表論文アブストラクト募集 締切

- 2月10日 ○学会ジャーナル一般、査読論文採択通知
○春季研究大会発表者採択通知
- 2月20日 ○学会ジャーナル査読論文修正付採択者の最終原稿提出（15枚以内）締切
- 3月 ○学会ジャーナル第14号発刊及び春季研究大会開催
- ※論文執筆要領は学会ホームページの「論文投稿要領」と「テンプレート」をご参照ください。
http://CIO-japan.waseda.ac.jp/docs/journal_template_2012.pdf

3. 日 ASEAN スマートシティ・ワークショップ開催

いよいよ明日から日 ASEAN スマートシティ・ワークショップが 23 日までベトナムのダナン市で総務省と ASEAN 事務局、ベトナム政府との共催で開催されます。小尾学会理事が議長で、ASEAN10 か国から約 50 人の政府担当者や専門家が集結します。日本からは総務省、NICT、早稲田大学をはじめ NTT 東など企業 3 社が参加。ASEAN 市場開拓の絶好のチャンスです。世界的ブームのスマートシティ PJ について、日 ASEAN の協力連携や、アカデミアの役割等について議論します。詳細は帰国後ご報告させていただきます。

4. 高齢者のデジタルデバイド解消のための CSR プロジェクト開催（11月28日）

11月28日に、新宿区西早稲田地域交流館の高齢者を対象に、デジタルデバイド解消のためのスマホ教室を開催致します。華為技術日本に御支援を頂いている本プロジェクトは、スマホをはじめとする IT 機器の利用率向上と、デジタルデバイド解消のための講義+実践のプログラムです。学会としましても NPO 法人として広く社会の情報化に貢献できるよう、草の根活動も行っております。

5. 日中会議「スマートシルバー・イノベーション（ICT ビジネスと日中高齢社会）」終了

日中科学技術会議「スマートシルバー・イノベーション」が中国青島市にて10月20～21日に開催されました。両国の巨大マーケットに浮上している医療健康分野の主役高齢社会産業に焦点を当てたこの会議には、両国から専門家41名が参加し、オブザーバーを含め200名近くが参加しました。日本側は学会会員14人も出席しました。

今回、日本側は JST(文科省の科学技術推進機構)が共催機関で、総務省、学会、早稲田大学、CIAJ も本フォーラムに協力しています。中国側は中国政府、科学技術協会、中国人工知能学会、山東省がホストで、特に建築学会、AI学会の会長等、幹部多数の参加が見られ、大変注目の高い会議となりました。そのため終了後、中国の多数のメディアで報道発表されたようです。

以上

(文責：三嶋)